



# 東大37航空会会 誌

---

幹事会

---

## 名簿と卒業写真

---

昭和37年（1962）3月卒業

<https://docs.google.com/file/d/0B4LVy2XnFOqYOVdUN192WDdZakU/edit?usp=sharing>

卒業写真

<https://docs.com/X3BM>

クラス会

平成25年6月8日（土）12時30分 グランドヒル市谷「サルビア」

次回予定

平成26年7日（土）12時30分

## &lt;相原君のこと&gt;

## 白石

大学時代にまず思い出されるのは、検見川ゴルフ場に彼のシボレーに乗せてもらって、小生の父の関係で会員権があったので、二人で出かけてゴルフをやった。

彼の方がゴルフは上手だったように思うが、よくは覚えてはいない。丁度われわれのキャディーをやってくれていたのが若い男の子だったから、彼がその男の子にゴルフのプロになっても面白いぞと言っていたのが印象的だ。

小生は、卒業後、日本航空機製造株式会社においてYS-11の構造担当だったが、実際には名古屋の三菱小牧工場において飛行試験を実施していた。ところが、3つの舵とも規格に満足せず1年余計に飛行試験がかかってしまった。丁度このとき東京オリンピックに向けてYS-11による聖火輸送が決まっていたから、何とかこれを目途に国を挙げてYS-11を本物の飛行機に仕上げなければならなくなった。おかげでオリンピック開催がよい動機づけになった。

ところが、このYS-11を完成後次に何をやるのかこれがはっきりせず、皆途方にくれているときに、航空自衛隊のC-1輸送機の開発が持ち上がった。小生は運よくこの設計グループに入りこの航空機のエンジン装備の担当を仰せつかった。まずエンジン選定では、防衛庁側はすっかり石川島に洗脳されてGEのJ-79（ファントムについているエンジン）を主エンジンにして、その排気ガスで風車の要領で動かすアフターファン（コンベア990機に同様エンジンが搭載され、代表的な失敗作機）を提案してきたのに対して、プラット・アンド・ホイットニー社のJT8Dエンジン（ボーイング727に装着されている）を三菱商事が提案してきた。商事の担当者は何人かおられたが、勿論相原も入っていて、時々会議中相原がまだ十分に流暢に話せるわけではなかった英語の通訳をさせられたりしていた。防衛庁はすでに海外調査などを行って、はじめからGEという前提であったところを、相原他の協力でJT8Dエンジンに決定することができた。これはまさしく正解であったと今でも固く信じている。

その後彼と会うと必ず話に出たのが、C-1機のスラスト・リバーサー（逆推進装置）の装着である。ボーイング727方式（エンジンの排気管の中に細工する方式）かDC-9方式（排気管から出た空気を後方に設けた当て板に当てる方式）かが問題となり、これは相原がその実行性も含めてまるで設計者のようにアイデアを出したのが大きく影響しDC-9方式に決まったことだ。

比較的最近では、小生が航空技術協会在籍中に「YS-11のエアライン記録」なる本を取りまとめたが、ご存じの通り本の出版には元手がかかる。ついては多くの方々に資金を提供していただいたが、相原にたのむと二つ返事でOKしてくれた。おかげで立派な本を出版することができて大変喜んでいる。

その後、また、相原のおかげで三菱商事において顧問もさせていただき、相原には全く頭が上が

らない。

昨年の夏、久保君と一緒に会社まで様子を見にいったとき、相変わらずタバコは山のように吸うし、痩せてしまっていたが、身体を鍛えて、またゴルフをやりたいと言っていたので、元気を取り戻すものと固く信じて退出した。しかし、このように早々と逝ってしまうとは思ってもいなかった。ただただ残念である。

相原君 平成25年1月28日 命日

### <神田君のこと>

相原に続いて同じ年に神田君まであの世に行ってしまうとは思ってもいなかった。神田君はよく勉強したのは皆様ご存じの通りであるが、こちらは結局会社に入ってから航空機に携わることができたので、否応なく構造やエンジンの勉強をやったようなわけで、学生時代には何か一緒にやったとの思い出はまるでないのが残念である。さらに、神田君は軍用の戦闘機設計にずっと携わってきたと聞いているが、こちらはYS-11という民間機、及び軍用機といってもC-1輸送機なのでまるで畑違いだったせいも、卒業後も全く接触がなかった。

今年には「風立ちぬ」なるアニメが封切られた。小生は結局見る暇がなくてまだ見ていない。多分そのうちテレビで見ることになるだろうと思う。小生は御存じの通り、音楽に凝っていて、2つほど素人バンドに関係しているため、何かと音楽の方が気になるのだが、「風立ちぬ」の中で「ひこうき雲」という曲が使われている。松任谷由美が荒井由美のころ友の死を悲しんで作った曲らしいのだが、その歌詞の中に「空に憧れて空をかけていく、あの子の命はひこうき雲」というくだりがあり、飛行機一点に集中してきたと思われる神田君を彷彿とさせる。神田君もひこうき雲になって空を飛んでいるに違いない。

神田君：平成25年9月19日葬儀

#### \*航空教官ハンドブック

4,200円（税別）：[税込み価格 4,410円]

鳳文書林出版販売

FAA フライト スタンダード サービス

白石磐 訳

本書はアメリカFAAの“Aviation Instructor's Handbook”を翻訳したもの。

#### \*前根明と白石磐が語る「空のたびの舞台裏」2009年6月2日

[http://miyamosaburo-annex.jp/album/album\\_shiru/ws\\_hitohiro2.htm](http://miyamosaburo-annex.jp/album/album_shiru/ws_hitohiro2.htm)

#### \*YS-11のエアライン記録



## 相原宏徳君逝去

さる1月28日、相原宏徳君が逝去しました。享年74歳。最後は多臓器不全で、昭和37年卒の航空学科機体コース22人中の最初になってしまいました。激しく生きたのでしょう。肩書きは無数にあったと思いますが、三菱商事の副社長であったことはご承知のとおりです。

学生時代の彼はラグビーに忙しく、教室で顔を合わせることは余りありませんでしたが、お互いに、麻雀が一番強いと思っていたはずです。

卒業後、私は大学に残って宇宙をやることになり、彼は三菱商事へと道が分かれましたが、彼が商事で宇宙航空を手掛けしかも偉くなるころから道が交錯しだしました。そこに至るまでのかなり長い期間あまり接触はなかったのですが、それでもその頃のエピソードを二つ、三つ。

彼のニューヨーク時代、彼のコンドミニアムを訪ねたあの動じない園部が、あまりの豪華さに「一見の価値あり」と言っていました。もっとも、私の職場は三菱総研ほど暇ではなかったので、ついぞ見学の機会はありませんでした。青山のサバティーニで家内と夕食をしていると、彼が美女二人と颯爽と現れたことがありました。会社の人だそうですが、道徳的には私に分があるにしても、風景的、心理的には彼に分がありました。何しろ2対1ですから。私が属していた宇宙科学研究所が財団を作って所を支援することになりました。

寄付金集めで彼に電話しました。「幾ら?」「500万」「いいよ」というやり取りがあって、この時は本当にしまったと思いましたね。なぜ1000万と言わなかったのかと。それにしても1000万までしか浮かばないのが貧乏人というものでしょう。罰が当たったのか、その財団「宇宙科学振興会」の理事長をさせられています。間違っても「天下り」で甘い汁を吸っているなどと思わないでください。清く正しい財団で、無給ですから。私がたまたま宇宙科学研究所の所長になった頃「お前とか、相原とか、なんかやくざっぽいのに限って長になるのは何故かな」と河野に言われたことがあります。相原はともかく私はとんだとばかりで、河野のファーストネームが「長」なのは皆様ご承知のとおりです。

私が宇宙開発委員長になった前後から、彼が社外重役をしている有人宇宙システム（Japan Manned Space System Corporation : JAMSS）で、数カ月に1回程度、賢人会を僭称して飲むことにしていました。彼と私、それに家主でもあるJAMSSの松井会長、JAXAの立川理事長（NTTでのニューヨーク時代にお付き合いがあったようです）、JAMSSの菊池専務、商事での部下でもあり今は宇宙工場の主宰者である越智さんが創設メンバーです。宇宙つながりではありますが、それぞれの背景も異なり、越智さんと彼とのやり取りからは、横暴ではあったが頼りになったであろう上司としての側面が垣間見えたりで、なかなか楽しい時間でした。控えめに言っても、彼が8割は喋っていたと思います。政財界の話、対米関係のこと（かれは知日派としてつとに著名なアーミティジ氏とも親交があったようです）、いまだに多方面で活躍していただけに話題は尽きません。宇宙開発に関する彼の主張は、開発は官が事業は民が、といういわば常識的なものですが、重点は、官がしっかり開発せよということでした。

私が現在JAMSSに草鞋を脱がせていただいているのも、彼との縁からです。これも、JAMSSの

名誉のために言っておきますが、天下りとはおよそ無縁のことです。

数年前にも痩せて元気のないことがありました。言って聞く人ではないからと頼まれて「ごちゃごちゃ言わずに、何でもいいから医者に行け」と電話したことがあります。結果は吉と出て、当人も元気になり私たちもそのことは忘れていました。去年の10月には例の会を開いて彼はよく喋り、よく飲み、大学時代にゴール前での彼のラストパスをチームメイトが落球し、おかげで早稲田に勝ちそこなったといまだに憤懣やるかたないなど、誰も不調に気づかぬ元気さでした。入院の報を聞きましたが、見舞われた方のお話では元気だということで、比較的気楽に出かけたのですが、奥様から今日明日と伺って本当にびっくりしました。私のことはもう分かりませんでした。

私などは彼のほんの一面しか知らないのですが、最晩年になって雛田の引退後最もしげく会っていた同期について、何か書いておきたくなりました。心から冥福を祈ります。

人の連関図

<http://spysee.jp/%E6%9D%BE%E5%B0%BE%E5%BC%98%E6%AF%85/1042142/>

R&D

<http://researchmap.jp/read0179392/>

公益財団法人 宇宙科学振興会 代表理事 松尾 弘毅

財団法人 宇宙科学振興会は、宇宙科学（宇宙理学、宇宙工学を含む）に関する事業への援助及び研究助成等を行い、もって宇宙科学の進展に寄与することを目的として、平成2年6月に設立された財団法人でございます。この財団は設立以来永らく、関本忠弘理事長(平成2年6月～平成12年6月)、武井俊文理事長(平成12年6月～平成24年3月)のもとでその本分を尽くしてまいりましたが、此の度の財団法人の制度改革により、公益財団法人 宇宙科学振興会に移行し、私が理事長を務めることになりました。この間長年ご尽力いただき、また移行に際しては必要な諸手続きに忙殺された旧執行部の方々に敬意を表するとともに、そのご苦勞に見合う数々の利便を手にするであろう巡り合わせに恐縮いたしております。

言うまでもなく本財団の設立の趣旨は宇宙科学(宇宙理工学)研究の支援であり、宇宙科学研究分野は宇宙先進国においては各国とも不可侵ともいべき領域として重視し、力を注いでいるところです。わが国の宇宙科学研究の中心となっている宇宙科学研究所は、近年大いに話題となった「はやぶさ」の活躍にも見られるとおり、その活力と世界的な名声とを維持しています。名称も宇宙科学研究本部から旧来の宇宙科学研究所に戻りました。宇宙科学研究所を中心とした日本の宇宙科学研究のますますの発展を願っております。

残念ながら本振興会においても、昨今の経済情勢の悪化の影響を受け、多くの企業から出捐いただいた浄財の運用益も減少傾向にあり、当財団においてもその運営に少なからぬ影響は避けられない情勢であります。しかし当財団の本務であります、宇宙科学分野における若手研究者に対する顕彰事業、研究者の国際学会参加への支援、国際学会・研究会の国内での開催の支援、

等々振興会設立の趣旨に則った公益目的事業としての活動の展開と、多くの企業から出捐いただいた資金の堅実な運用に工夫を凝らして参りたいと存じておりますので、何とぞご支援のほどよろしくお願いいたします。

Itaru Aoki's Docs

<http://docs.com/Docs/100001671812293>

逝る言葉 相原 宏徳君

1. ウイングとしてさすがに全力で疾走しましたね。でもとても残念です。君と初めて会って声を交わしたのはのは入学試験ですから、今から55年前の3月でした。東大の入試ではアイウエオ順に並べられるから、相原と青木は机を並べていました。

当時は3日間の試験で、最初の日に数学がありました。私はこれにかけていましたから必死でした。終了後、親しそうに「おい、どうだったか？できていたようだな」などと彼は例の憎めない笑顔で声をかけてきました。最初はなれなれしい奴だなと思っていましたが、調子がいいのですぐに打ち解ける事ができました。ビジネスでの彼を全く知りませんが、きっと誰に対しても同じような様子だったのでしょね。

2. その後の駒場ではクラスは違っていたので、たまにキャンパスで見かける程度でした。本郷に進学して航空学科の名簿を目にし、私の上に君が座っているのを見つけました。青は藍を越えられない宿命です。本郷での2年間はクラス22名でしたから、いつも楽しく学び遊びました。君は常に笑いの中心にいました。

君はラグビー部だったので、そのせいかわかりませんが、よく授業を欠席していました。いつもノートを貸していました。そのために、私も真面目によくノートを書いていました。もうなくなった鷲津教授の授業は中でも難解なので有名でした。確か非定常空気力学という講義、いま問題となっているオスプレイの安定飛行性能といえお分かりと思います。この先生の試験でノートを貸した私よりも、借りた君のほうがよい点を取りましたね。私のノートがよくできたいたのではないかと思うことにしました。

何時か秩父宮ラグビー場へ試合を見に行った事がありました。近所の女子高生を誘って行きました。次の日だったか忘れたが、君に会ったら開口一番「可愛い子と一緒にあったな」と言われた。試合しながら、よくもグラウンドから観客席が見えるものだと感心したことがありました。

3. 授業後、何も無い時には赤門の前の喫茶店で過ごしました。君はよくTIME誌んでいました。その時すでにどこか商社に就職するといっていました。工学部では普通はメーカーに就職するから変わった奴だなと思っていました。4年も後期になると、卒

業論文や卒業設計の課題が重要な課題となってきます。差し迫ってくると、夜遅くまで教室でみな頑張っていました。私は比較的早くから準備していたので、慌てませんでした。提出期限が迫ってくると皆必死でした。君からは終わったら手伝ってくれと言われていました。そうなるこちらにも必死になって計算機をまわして自分の論文作成に頑張りました。最後は鶴見の彼の家で徹夜をしたこともありました。その時に君の親父からも薫陶を受けました。

4. 就職してからは、商社と鉄屋で殆ど交流はありませんでした。ところが1984年になった私にNY勤務の辞令がでました。その時、既に私も45歳になっていました。彼はいろいろと心配してくれました。そのような遅い時期の海外勤務は商社ではないからでした。その時、私は帰国したら大学へでる準備をしていたので、それを話すと彼は「お前さんにはそれが良い」と安心してくれました。出発直前になって、ご夫妻ともども、私ども夫婦を銀座のレストランに招待して送別会をしてくれました。NY滞在中にも時々君は現れて、いつもその時はホテルで朝食をともにしたものでした。

5. 君とは主として本郷での2年間だけの濃密な付き合いでしたが、勉強だけではなく、最後まであきらめないとか、人との付き合い方など私のにとっては、その後の人生や仕事に有益なことを多く教えてくれました。いずれ、またそちらで学友たちとも一緒になることでしょう。その時まで待っていてくれたまへ。(2013年2月10日)

1. 新日本製鐵株式会社
2. 玉川大学工学部経営工学科
3. 十文字学園女子大学社会情報学部
4. 日本文華学園 理事

青木 至

(実は、平成25年1月22日から急性大動脈解離で、府中市の榊原記念病院に入院していた。相原の訃報は集中治療室のベッドの上で聞いた。)

青木様

諏訪恵子様よりの返信

お早う御座います。

無事、退院され自宅療養とお聞きし、ひとまず安心致しました。

これからは完治に向け、体力回復、健康維持に専念されて下さいませ。

相原への送る言葉、胸が一杯に成りました。

私は三菱商事での相原しか存じませんでしたので、大学時代のお二人の出会いや思い出はとても新鮮なお話しでした。

以前から青木様の事は相原より良くお話しをお聞きしていましたが  
試験では優秀な青木様に何時も助けて頂いていた事や、ノートを何時も  
お借りしていた事、論文の作成でも大変お世話に成った事など、沢山の  
思い出話しを何時も楽しそうにお話しされていました。

3月末に（日程未定）お別れ会を企画致します。  
御身体の方が宜しければ、是非参列頂ければと願っております。  
又、37航空会の皆様にもご案内を差し上げたく存じて居ります。  
確定次第、ご自宅宛にご案内状を発送させていただきます。

青木様に於かれましては、1日も早く完治され、元の元気な御身体に  
なります様、お祈り致して居ります。

諏訪

2013年2月13日

☆★～☆★～◆◇\*\*◆◇～☆★～☆★

TTI・エルビュー株式会社

会長秘書 諏訪恵子

URL:<http://www.transcu.com/>

神田君への言葉

神田君とのこと

3年生だったか4年生の時だか定かではないが、神田君が病気で休学していた時に、彼の故郷  
の前橋の病院へお見舞いに出かけた。確か級友が4、5名いたように思うが名前は思い出せない  
。彼の父親は当時、群馬県の知事だった。どこの病院だったかも記憶にはないが、その後、群馬  
県庁の秘書課長みたいな人が現われて、我々を黒塗りの車で案内してくれた。

市内をまわって、群馬県庁で知事に挨拶をしたので、何となくその風貌を覚えている。それ  
から、赤城山までその車で登り、大沼周辺と赤城神社を散策して紅葉を満喫した。帰りに何かお  
土産まで頂戴して、そのまま高崎の駅まで送ってもらった。何だか、友人の病気にかこつけて観  
光旅行をしたような気分だった。

昨日の通夜（平成25年9月18日）で、神田君の奥様にこのことを話したら、あの当時、  
彼は肝臓を患っていたと言われたので、神田君とはその当時からの付き合いだった事がわか

った。彼は自分のことを口に出すことはなかったので、誰も知らなかったと思う。そういえば、相原君も奥様とは学生時代からの付き合いで、その当時、私も彼女とはお会いした事がある。

私は1967年から83年まで三菱の工場の南、東海市にある製鉄所にいたから、高度成長期に神田君とは職場は近かったことになる。私はトヨタなど自動車との付き合いが深かったので、三菱自動車の工場との付き合いはあったが、大江の三菱には一度も行った事がない。それぞれ仕事に没頭していて、なかなかそれ以外の事に気が向くような余裕はなかったのだろう。今になってみると、少し残念なことと思う。

(平成25年9月19日 記)

青木至 :

研究情報 : <http://p.tl/HX22>、

HP : <http://www.geocities.jp/iiaoki/>

R&D情報 : <http://researchmap.jp/read0050803/>

論文情報 : <http://sc.chat-shuffle.net/human/id:414208>

圧延荷重を与えるプロセスモデル式による摩擦係数の決定について

Prediction of the Friction Coefficient through the Model Equation of Rolling Load

柳本 左門 , 高橋 肇 , 青木 至 他 , Yanagimoto, Samon , Takahashi, Hajime , Aoki, Itaru et al.

神奈川工科大学研究紀要. B, 理工学編

B ( 15 ) , pp.85 - 89 , 1991-03-20 , 笹氣出版印刷株式会社

内容記述

機械工学

本文を読む

<http://www.repository.lib.kanagawa-it.ac.jp/dspace/bitstream/10368/604/1/kkb-015-008.pdf>

**連載「実践・パソコンによる塑性加工の計算」IV  
: Orowanの圧延理論 A Series of "Plastical  
Calculation of Plastic Processing by Personal  
Computer " IV : Orowan's Theory Plane Strain**

# Rolling

- ○ [柳本 潤 YANAGIMOTO Jun](#)
  - 東京大学生産技術研究所
- ○ [柳本 左門 YANAGIMOTO Sanon](#)
  - 神奈川工科大学工学部機械工学科
- ○ [青木 至 AOKI Itaru](#)
  - (株)日本鉄鋼協会
- 塑性と加工 34(395), 1314-1319, 1993-12-20      日本塑性加工学会

## 零戦と堀越二郎

堀越二郎の長男の堀越雅郎は、小石川高校の同期生で或る友人の紹介でしたしくなり、私の親しい友人でした。就職が決まってから、堀越二郎先生と会い親しく話しをしたり、亡くなってからお墓に参った事もあります。こんな事あまり人に話した事はありませんが、話をすると、零戦、堀越に憧れて飛行機をやったか等云われるのですが、私の場合まったく関係ありません。私の場合、飛行機に決めたのは、サンテクジュベリの小説”夜間飛行”でした。これを読んでパイロットに憧れ、その資格がないので設計をとゆう次第でした。鳥のように空を飛びたい、ただそれだけの単純な発想ですが、後悔したことはありません。堀辰雄も、私の青春の淡い仄かな、何か遠くかすんだ花の様な感触だけが残っています。

アニメの中でどのような、結びつきがあるのでしょうか。どちらも、遠い人間の憧れの表現の様な気がします。

中原 征司

## 航空機産業の将来 小型民間輸送機(YSX)開発調査 の今後の展望

Future of the aircraft industry. Future perspective on development and study of a small-sized civil air transport (YSX).

著者：中原征司 (日本航空機開発協)

資料名：機械振興 巻：29 号：5 ページ：51-55

発行年：1996年05月

<http://jglobal.jst.go.jp/detail.php?>

[JGLOBAL\\_ID=200902110763052852&q=%E4%B8%AD%E5%8E%9F%E5%BE%81%E5%8F%B8&t=0](http://jglobal.jst.go.jp/detail.php?JGLOBAL_ID=200902110763052852&q=%E4%B8%AD%E5%8E%9F%E5%BE%81%E5%8F%B8&t=0)

同期諸兄

7月20日 平成25年

海老原

青木さんの「どうして、堀辰雄の小説「風立ちぬ」と言うタイトルなのか私も疑問だったので、・・・」と同じく、小生は予てアニメ映画「風立ちぬ」の新聞広告をみたときに「何だ、これは」と思った。堀辰雄作「風立ちぬ」のイメージと零戦の設計者としての堀越二郎のイメージとは互いに異質で、どうして両者が結びつくのか、宮崎駿監督の頭の中が皆目見当つかなかったからである。

小説「風立ちぬ」は、高原のサナトリウムで結核の療養をする若い女性節子と、その婚約者で節子の病床に付き添う「私」(堀辰雄の分身たる作家志望のインテリ)との間の、生きることの美しさをめぐる繊細な心理の結びつきを綴った作品で、一時期、結核患者の愛読書として一世を風靡した。この作品のキーワードは、「生きる美しさ」、「若い男女の間の心理的結びつき」、「八ヶ岳山麓の魅力的な自然描写」といったところか。

一方、堀越さんは、戦後の日本で極めて世評が高く、一部の人々には神様のように崇められている存在だが、小生の裡では、技術者として卓抜しているが人間的には難しい人で、仕事の上で直接に接した人々の間ではかならずしも評判が良くないというイメージがある。従って「秀才」、「細部への拘泥」、「狷介」などがキーワードで、小説「風立ちぬ」のそれとは懸け離れている。(強いて言えば、「結核」が共通か)。

という訳で、宮崎監督の発想が理解できなかったのだが、今日(7月20日)の朝日新聞朝刊にあるインタビュー記事を見て、そういうことかと幾分か納得できた。つまり、宮崎駿＝飛行機(特に軍用の)マニア→堀越二郎への傾倒→堀越二郎に仮託した自分の夢のアニメ化、というのが映画製作の動機らしい。小説「風立ちぬ」は、(ミーハーをひきつけるためか?)ヒロインを借りてくる親許としての思いつきというだけのことのようなのだ。

青木さんの眩きに便乗して何故こんな話を持ち出したかと云うと、世評の高い人物のその世評が往々にして「美しい誤解」であることがあり、その「美しい誤解」に直面したときにどういう態度をとるべきかという問題を感じるときがあるからだ。例えば堀越さんの崇拝者からお前は堀越さんをどう思うかと訊かれたときに、「あの人は稀有の天才だ、あの人を先輩にもつことを光榮に思う」と云うか、「技術者として卓抜した人だが、人となりは狷介で、周囲は結構悩まされたようだ」と云うか。我々の周りは、そのような歴史的著名人物が豊かだ。谷一郎先生の場合、糸川英夫先生の場合、・・・。

これを敷衍して考えたとき、古今東西を問わず、有名人に関する一般の世評がどの程度「美しい誤解」を含んでいるのか、世評の鵜呑みはまず留保するに如くはないと云えよう。

<http://sc.chat-shuffle.net/human/id:2707089>

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110000081237>

科学研究費助成事業データベース

<http://kaken.nii.ac.jp/d/r/20011596>

論文

<http://sc.chat-shuffle.net/human/id:3548734>

志甫徹先生：

ベトナム（だっけ？）の衣装を着ているのが  
呉（オウ）さん。いろいろ考えつくことはすごいけど  
それ全部やったら卒研終わらねえだろ・・・。  
というのはさておいて、インドなどの中央アジアを  
1人で旅するなんて、度胸満点だね。  
医療機器メーカーに勤めています。

志甫徹先生。俺の恩師です。

宇宙分野では日本だけでなく世界的にも有名な先生！

俺がケガしたときにも見舞いに来てくれて・・・。

俺、迷惑かけっぱなしなんだよなあ。

これからもよろしく御願います。

[http://page.freett.com/yamaweb/grad\\_2.htm](http://page.freett.com/yamaweb/grad_2.htm)

東大航空宇宙研究所や宇宙開発事業団で軌道工学関連の仕事をされ、現在も日大の航空宇宙工学科教授である「志甫 徹」博士は、葛城茂麿（元、山階宮茂麿王）を義父にもつ。

先日、志甫教授は「一族の中には新しいもの好きというか、科学好きのDNAが流れていたようです」と、頂いたメールの中で述べられていた。

実は山階宮茂麿王は、20才そこそこの若い身で皇族議員をなさっていたが、科学者としての途を歩むべく臣籍降下を願い出て伯爵葛城の姓を賜り、昭和になってすぐ戸山ヶ原に設けられた陸軍科学研究所に於いて軍事研究を推進され、登戸の地に出来た実験所で研究をされていたのだ。

いまは人口に膾炙している所謂「登戸研究所」である。

日米開戦後は、新たに出来た「第七技術研究所」で原子爆弾の研究を推進中、放射能による白血病に罹患、終戦の翌年早々四十の声を聞かずして亡くなられた。

この第七研究所は原子爆弾を含む理学研究がなされていたが、他にもいろいろあって、陸軍でありながらも海中に潜ってゴム袋にいれた戦車などを曳航輸送する潜水輸送艦などを開発していた。

出典：

<http://homepage3.nifty.com/time-trek/else-net/topics-06-01-28.html>

中でも考えられるのは、ある種の薬物の研究である。といっても毒ガスの類ではない。特攻隊が出撃するとき、水盃を交わす場面を見た人は多いだろう。あの中にある種の化学成分が入っていた可能性があるのだ。

株式会社白金経営企画室

[http://platinum-marketing-management.blogspot.jp/2013/02/blog-post\\_17.html](http://platinum-marketing-management.blogspot.jp/2013/02/blog-post_17.html)

目に留まったのは社外取締役の相原 宏徳（あいはらひろのり）である。これも検索をかけてみると、私が過去にブログで取り上げていた。私はすっかり忘れていた。それが、冒頭で紹介したIISSの評議会（カOUNシル）なのである。現在は相原は外れて、代わりに加藤良三元駐米大使が入っているが、09年までは相原はメンバーだった。

(<http://www.servinghistory.com/topics/IISS::sub::Council>)

相原とはどういう経歴かという、「三菱商事から出発して、三菱系の軍事・宇宙・通信関係を渡り歩いてきた人物。宇宙通信という品川にある衛星通信の会社の会長である」と私はかつて紹介していた。防衛宇宙産業のキーマンらしい。ただ、一方で、シンガポールに本社がある「トランスキュー・テクノロジーズ（現・Transcu）」という企業の取締役会議長もしており、さらにはブルドックソースやアデランスに買収攻勢を仕掛けた、ハゲタカファンドの「スティール・パートナーズ」のメンバーでもあった。[面白いところではジブリアニメ「千と千尋の神隠し」の制作陣に加わっているようだ。](#)相原自身、リップルウッドのアドバイザーボードメンバーであるほか親米財界人の葛西が率いるJR東海の実業取締役でもある。

そこで三菱商事と言えれば思い出されるのは、あの榎原稔（ベン榎原）。新生銀行取締役などを務め、息子・榎原純はリップルウッド取締役などを務めるパワー・エリート（ロックフェラー系宇宙人）だ。ベン榎原もそろそろ引退。世代交代の時期で、おそらくベンの後を継ぐのがこの相原宏徳だろう。相原が会長をしているトランスキュー社は、美容やナノテクを中心にするバイオ企業。取締役会名簿を見ていくと、「なんでこんなところに君がいるの？」という人物が出現する。（[http://www.transcu.com.sg/transcu\\_bod.html](http://www.transcu.com.sg/transcu_bod.html)）

競走馬戦績

<http://db.netkeiba.com/owner/307030/>

エネルギー消費時代の次に来る社会 2011年11月5日

<http://bit.ly/1bKQvLc>

ヘリコン波プラズマ源を使用した球状トカマク燃料入射器の試作

<https://kaken.nii.ac.jp/d/p/09558062.en.html>

宇宙工学の進歩(II.技術にはなにが可能か)(<特集>技術のもたらすもの-工の倫理) (1983)

<http://ci.nii.ac.jp/author?q=%E5%B0%BE%E5%8E%9F+%E5%BC%98%E6%99%83>

次期支援戦闘機"XF-2"の開発 (航空・宇宙特集)

1996-5

<http://ci.nii.ac.jp/nrid/9000008718301>

ネット上の報文

ネット上

ネット上

R&D情報

<http://researchmap.jp/read0162326/>

産学プラザ

<http://www.sangakuplaza.jp/page/148222>

人力飛行機同好会

<http://aitech.ac.jp/~ait-news/070515/index.html>

ネット上

産学プラザ

<http://www.sangakuplaza.jp/page/152974>

驚きの嵐 世紀の大実験！！

<http://www.nit.ac.jp/topics/view/408>

科研

<http://kaken.nii.ac.jp/d/r/10013674.en.html>

あの人スパイシー

<http://spysee.jp/%E9%9B%9B%E7%94%B0%E5%85%83%E7%B4%80/1042292/>

宮嶋 克行 (Katsuhiko  
Miyajima)  
教授

東京都立科学技術大学

宮嶋研究室では、飛行機やヘリコプタを含む全ての航空機に関し、どのような飛行特性を持たせればパイロットはその航空機を安全かつ容易に操縦することができるかを、工学及び力学の観点から研究することを目的としています。このためにはパイロットの挙動に関し人間-機械系の閉ループを考え、その特性を数学的に評価し解析することが重要であります。理論的検討結果については更にフライトシミュレータを用いた実験により確認しています。

学位論文要旨

<http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gakui/cgi-bin/gazo.cgi?no=101411>

ネット上

## 実時間CG技術の現状

最近、Computer Graphics (CG) 技術が、プレイステーション2 (PS2) のようなTVゲーム、ジュラシックパークなどの映画、TVコマーシャルなどに応用され一層身近なものになってきた。また、バーチャルリアリティ (人工現実感, VR)、サイエンティフィックビジュアライゼーション (SV) などの言葉を各種メディアで見聞きする機会も増えてきた。

振り返ってみるに、実時間CGの実用化において先駆的な役割を果たした技術は、フライトシミュレータをはじめとする各種シミュレータ用模擬視界装置 (ビジュアルシステム) であると考えられる。筆者らは、同システムの開発・応用に長年携わってきたので、その観点から実時間CG技術を概観してみようと思う。

本稿では、CG技術なканずく実時間CG技術の現状、その技術発展の歴史、及び将来展望について述べる。

<http://www.ieice.org/jpn/books/kaishikiji/200103/20010301-1.html>

## 論文集

<http://sc.chat-shuffle.net/human/id:2369933>

カワサキPU1250形ガスタービン発電設備

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110002712903>

<http://sc.chat-shuffle.net/paper/uid:110002712903>

東大37航空会 会誌

<http://p.booklog.jp/book/77803>

著者 : gorohaaki

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/gorohaaki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/77803>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/77803>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ